

【教材を理解する】

主題名：誠実な生き方

「ねらい A 正直，誠実」（どのような状況にあっても常に誠実に行動し、
明るい生活をしようとする心情を育てる。）

- ① 教材を読む。

教材名：「手品師」（「新しい道徳6」東京書籍）

授業のねらいとする道徳的価値に沿って、教材を読む。

【話合いの中心の検討】

ねらいとする道徳的価値に迫るための問いかけ。

- ② 児童に最も考え、話し合わせたい事（場面）とは何かを考える。

手品師にとっての本当に誠実な生き方とは。

【中心的な発問の検討】

考える必然性や切迫感がある、自由な思考を促し、多様な価値観を引き出す。

- ③ 話合いのきっかけを投げかける中心的な発問を考える。

手品師にとって、本当に誠実な生き方とは何なのでしょう。

- ④ ③の話合いにおける児童の反応を予想する。

- 男の子との約束を守ることは相手に嘘をつかない誠実な生き方だと思う。
- 自分で決めた約束を最後まで曲げないで通すのは自分に誠実な生き方だと思う。
- 大劇場に出ることは、自分の夢を叶える誠実な生き方だと思う。

- ⑤ 話合いを深めるための補助発問（問い返し・揺さぶり）等

みんなが手品師の立場だったら、どうしますか。

ねらいとする道徳的価値や道徳的事象について多面的・多角的に考えさせる。

【前後の発問の検討】

- ⑥ 話合いの前提となる条件、主人公の条件（状況）等を整理する。

うではいいがあまり売れない手品師。生活は苦しいが、いつか大劇場に立つのが夢。さびしそうな男の子に出会い、マジックを披露したら元気になり、次の日も会う約束をした。その夜、遠くの町に住む友人から大劇場でマジックを披露するチャンスがあると連絡がくる。

- ⑦ 中心的な発問を生かす前後の発問等を検討する。

前 or 後	発問等	児童の反応
前	手品師は誠実な人でしょうか。	○誠実だと思う。 ・男の子との約束を守ったから。 ○誠実だと思わない。 ・自分の夢に嘘をついているから。
後		

- ⑧ 展開の後半部（後段）で、自分自身を見つめさせる発問（一般化）を検討する。

発問等	児童の反応

自己を見つめる発問、自己の生き方を考える発問等。

【導入・終末の検討】

- ⑨ 導入と終末の仕方を検討する。

導入	終末
アンケート結果を提示し、誠実な人について、クラスのイメージを共有する。	誠実な生き方について考えたことを書き、学級で共有する。

【板書の検討】

- 指導案参照